

年間第2主日の説教

金 大烈 神父 2009年1月18日(日)

《人間の弱さの一つは比較する事》

おはようございます。

これから2つの例を申し上げますが、皆様だったらどちらを選ぶのでしょうか。一つは【自分が20万円もらって、他の人は10万円もらう】もう一つは【自分が40万円で、他の人が80万円】皆様だったどうしますか。面白い質問でしょう。40万を選びますか、20万円を選びますか。しかし隣の人は80万円そして10万円です。これは実際にあるアンケート会社が調べたものです。結果はどの様になったと思われませんか。70%近くの人が【20万円をもらう】方を選びました。どういう事でしょうか。人間の満足というものはいつも"比較"する事です。例えば、戦後は食べ物が満足になかったでしょう、しかし今は食べ物に飢えて死ぬ事は殆ど無いと思います。しかしいつも"おなか空いている"感じがあります。これを専門的な言葉で言うと"相対的な貧困"と言います。絶対的な貧困ではなくて、いつも相手と比べて自分が貧しいと感じる。自分はオーディオを買ったが、あの人はベントを買っている。そうすると腹が立つ。結局人間の弱さの一つは"比較"する事です。いつも他の人と比較して、自分は弱い、自分は足りない、いつも何かを追いかける様な生き方をしています。

もう一つの話は、私はこの人を本で知りましたが、ジミー・ジュランテという人の事です。この人は第二次世界大戦の時のアメリカの芸能人だったようです。当時はものすごい売れっ子でした。その人が書いた回顧録の中のエピソードを皆様に紹介したいと思います。

その人は大変有名だったので、色々な所から公演の依頼がありました。ある日、戦争に参加した軍人達を慰労する為のライブショーの企画があり、そのショーを企画する人が何とかそのショーに出演して欲しいと頼みました。しかしジュランテは「私は大変スケジュールが混み合っているので、行っても殆ど時間が取れません」と答えました。企画者はそれでも構わないので、顔だけ見せてくれれば私たちの公演は大成功になりますと出演を依頼しました。そしてコメディアンだったジュランテは舞台上に上がりました。企画者はジュランテの舞台がすぐに終わると思っていましたが、10分たっても15分たっても、30分たっても終わりませんでした。これはどうした事なのかと驚きました。そしてジュランテはものすごく喜んでショーを見せていました。40分たち全てが終わって、舞台の裏に戻ったジュランテに尋ねました。「これはどうした事でしょうか、私との約束は5分位で終わるようになっていました。何故こんなにも長くやっていただけなのでしょう」。ジュランテは「実際私もそうするつもりで舞台上に上がったのです。一番前の席に座っている二人をご覧になって下さい」。企画者が幕の後ろから覗いて見ると、片手を失った2人の人が見えました。一人は左腕が無く、その人の右側の人は右腕がありませんでした。その人達は次の公演者に嬉しそうな顔で、残っている片手を互いに合わせながら拍手を送っていました。ジュランテは自分が演じた時にその二人が力を合わせて拍手をする姿、心から喜んで拍手をする姿を見て、時間だからと終わりにして舞台を下りる事が出来なかったと言いました。この様なエピソードです。健康な人がある日、事故によって、自分の望みでは無く何かを失った時、やはり辛いですね。そのそうなった姿さえ見せたくないのが、大体の私たちの心ではないでしょうか。しかしこの傷のある二人の軍人は、その舞台に集中して一生懸命に拍手をしていたのです。やはり体に傷を負わずに無事に戦争から帰った人を見れば、この2人も気持ちは良くないでしょう。悲しくなるでしょう。自分の体の事も気にしたのでしょうか。しかしそれにもかかわらず、二人で拍手をしながら笑顔を見せたところには何があったのでしょうか。

皆様、私たちは目覚めたらすぐ比較します。いつか私は黙想会の時に申し上げたと思いますが、人

間の本能の中の一つは "比べる心" です。それをどうしても避ける事は出来ません。避ける事が出来ない "比べる本能" だったら、出来るだけ "健康な比較" をしましょう。"比較" とはどのような事でしょうか。"健康な比較" とはどのような事でしょう。健康な比較は自分が失敗した時に、反省の心である比較、それが健康な比較です。そうでない比較はいつも自分を責めます。いつも自分を弱くします。いつも劣等感に陥らせます。何故なら、最も優れた者と言われても、その上の者が必ず現れるはずですから。

皆様、今日の福音で "シモン" という名前は何に変えられましたか。"ペトロ・ケファ" 岩の意味の名前に変えられました。皆様も洗礼を受けられた時に洗礼名を頂きました。どういう意味ですか。今まで考えた、そしてそれが本当だと思っていた世の中の価値観、やり方、考え方とかを全部捨てて、「あなたの教えが、全ての基準になります」という決意です。「そのような新しい生き方をします」という約束です。洗礼を受ける前と受けてからの生活が全く同じであったら、それは聖霊の働く場所が無くなる事です。私たちは聖霊の働きに協力しなければならないのです。その方が私たちの内に生きておられて、色々な事を果たそうとしても、私たちが協力する心、開いた心を差し上げなければ、その働きは無駄になります。皆様、よく考えてみましょう。私が去年の最後の日に、皆様に償いを差し上げました。「来年(2009年)は信者らしい生き方をしましょう」。どういう意味でしょうか。自分の洗礼名について責任をとりましょう。"自分が信者としてイエス様に教えて頂いた全ての事、一つの事でも出来るだけ黙想しようとする心、そしてそれを実践しようとする姿を見せましょう" という事だと思います。

私たちはしょうがなしに色々な事を比べます。それを洗礼を受ける前だけの事としましょう。私たちは信者です。本当に物質的に貧しくても、金持ちの様に笑顔を見せられます。体が壊れても、私たちは体が丈夫な人より、もっと健康な姿を見せられます。これが信者の顔です。信仰を持てる人の印です。これを私たちが拒んだら、実際に信仰の生活も何の意味も無いのではないかと思います。皆様は条件を考えないで下さい。条件を考えているから、いつも比べようとしているのです。比べないで下さい。もし比べようとするならば、自分より良いことをする人を比べて下さい。イエス様を比べようとして下さい。マリア様を比べようとして下さい。皆様の洗礼名の聖人達を比べようとして下さい。その方が皆様に満足感を与えられると思います。

さあ、最後に、フィリピの信徒への手紙3章8節に『私の主イエス・キリストを知る事のあまりの素晴らしさに、今では他の一切を損失とみています。キリストのゆえに、私はすべてを失いましたが、それらを塵あくと見なしています。キリストを得、キリストの内にいる者と認められるためです』。易しく言いますと、『イエス様の為にそれまで持っていた全ての価値観、全ての考え方を "塵(ごみ)" と考える様になりました』という告白です。

私たちはこの世の中の良くない、暗い価値観に従おうとする、そういう傾向はないか、傾きはないかを、このミサをとおしてもう一回振り返ってみましょう。そしてこのミサをとおして、"本当に私が幸せを感じられる道をあなたが下さるのを、案内して下さるのを私は信じます" という心でこのミサを捧げましょう。

ありがとうございました。